

早稲田アカデミー	5年							
	算数							
学習内容	13回 整数の分解と構成 14回 立方体・直方体の切断 15回 総合（予習シリーズ5年㊦ 第11回～第14回） 16回 濃さと比							
家庭学習ポイント	12月の学習内容は第13回「整数の分解と構成」、第14回「立方体・直方体の切断」、第15回「総合」第16回「濃さと比」です。第14回「立方体・直方体の切断」では、見取り図上に（見えない部分も含めて）正しく切断面がかけないと正解できません。特に「切断」という言葉の意味をはっきりと意識せずに「切り離すことができない」切り方を作図してしまっているお子さんは要注意です。立方体の切断は、切断面が正方形、長方形、ひし形、平行四辺形、台形、五角形、六角形になるものなどさまざまあります。見取り図に正しい切断面が書けるよう、しっかり練習しておきましょう。「濃さと比」も重要単元です。濃さに限らずですが、5年生後半の学習における最大のポイントは、できるだけ比の考え方を使い、シンプルに問題を考え解くことです。冬期講習は「和と差・数の性質」「割合と比」「立体図形」「速さ」などから典型パターンの習得を目指します。							
課題の把握と解決策	チェック1	整数の素因数分解が正しくできますか？						チェック
	解決策	単に割るだけではなく「素数で割る」のがポイントですね						□
	チェック2	大きな数でも平方数かどうか、判別できますか？						チェック
	解決策	たとえば $1764=2\times 2\times 3\times 3\times 7\times 7$ と素因数分解できれば $2\times 3\times 7\times 2\times 3\times 7=42\times 42$ とわかりますね						□
	チェック3	立体の切断面を正しく見取り図に書き入れられていますか？						チェック
	解決策	「切断＝切り離せる」ということを意識して取り組んでみましょう						□
	チェック4	立方体のさまざまな切断面を自分で書くことができますか？						チェック
	解決策	特に五角形や六角形の切断面は重要です						□
	チェック5	濃さの問題を、比を積極的に使って考えていますか？						チェック
	解決策	小数計算ばかりに頼っていては、ミスを誘発しやすくなります						□
早稲田アカデミー	5年							
	国語							
学習内容	13回 物語・小説(10)／主題 文と文の関係① 接続関係①／類義語 14回 説明文・論説文(9)／主張と根拠 文と文の関係② 接続関係②／対義語 15回 総合（予習シリーズ5年㊦ 第11回～第14回） 16回 物語・小説(11)／物語・小説の読解総復習 文と文の関係③ 因果関係／故事成語							
家庭学習ポイント	12月の読解は物語・小説と説明文・論説文です。論説文では文章全体を捉え、筆者の意見とその根拠とらえ、物語文では接続関係、因果関係などをもとに、文と文の関係の読み取ることを目指します。物語・小説ではおもに文と文との接続関係と因果関係を、説明文・論説文においても文章の接続関係を学習します。各文種とも、本文が長くなってくるのに伴い、文章にこめられた筆者の意見とその根拠がつかみづらくなっていきます。今読んでいる段落が、文章全体の中でどのような役割を果たしているのかを意識する視点を身につけられるかどうか勝負の分かれ目です。組分けテストの本文も長くなってくるので、時間内に解き切れないお子さんが増えてくる時期です。時間配分への意識も今まで以上に高めていく必要があります。また時間がかかるのにも、さまざまな理由が考えられます。単に「うちの子は読むのが遅い」で片付けず、解いているところを観察してみましょう。選択問題1問に数分かけていたり、記述で書いては消し書いては消しを繰り返していたり、解く効率が悪いことがじかんがかかる原因であるケースもあります。知識分野の学習では、類義語・対義語・故事成語になります。							
課題の把握と解決策	チェック1	論説文において「今読んでいる部分は文章全体に対してどのような役割か」を考えていますか？						チェック
	解決策	上記を意識できると、文章を通して筆者が言いたいことがわかるようになります						□
	チェック2	国語の学習に、いたずらに長い時間がかかっていませんか？						チェック
	解決策	上記のような「読み方のチェック」を親御さんが行うか、個別指導や家庭教師に依頼する方法も						□
	チェック3	物語文を客観的に読むことができますか？						チェック
	解決策	「自分がこう思う」だけにとらわれず、筆者、そして出題者が何を感じているか考えましょう						□
	チェック4	語彙を増やす努力をコツコツ続けていますか？						チェック
	解決策	類義語や対義語なども、ご家庭の会話の中で積極的に使うといいですね						□
	チェック5	語句の学習では、そのものを覚えるだけでなく「シチュエーション」を意識して覚えていますか？						チェック
	解決策	どのような場面でどのようなニュアンスで使われるかを意識して記憶しましょう						□

早稲田アカデミー	5年							
	理科							
学習内容	13回 生命の誕生 14回 電流と抵抗 15回 総合（予習シリーズ5年㊦ 第11回～第14回） 16回 電流と磁界							
家庭学習ポイント	12月は14回「電流と抵抗」で電流と電圧、電気抵抗の関係について学びます。14回「総合回」での「光と音」、「火山と地震」「生命の誕生」の復習をはさみ、冬期講習前に16回「電流と磁界」について学びます。「電流と抵抗」では、本格的に電流と電圧、電気抵抗の関係（オームの法則）について学びますが、これまでの豆電球などの学習を「丸暗記」で済ませてきたお子さんはつまずきます。「電流＝管（導線）の中を流れる電気の流れ」「電圧＝電流を押し流そうとするポンプの役割」「電気抵抗（電熱線）＝電流が流れにくい部分」というイメージをしっかりとっておくことが大切です。このイメージがしっかりついていれば「電圧が2倍になる⇒電気抵抗が一定なら流れる電流が2倍になる」「電気抵抗が2倍になる⇒電圧が一定なら電流が半分になる」ということ（つまりオームの法則）が理屈で理解できます。くれぐれも「丸暗記」で乗り切ろうとしないことが大切です。「電流と磁界」でも、導線の上、下に置いた方位磁針の振れの大きさは流れる電流の大きさによって決まるため、回路に流れる電流の大きさを正しく考えられることが重要になります。							
課題の把握と解決策	チェック1	電流・電圧・電気抵抗の関係について正しく説明できますか？						チェック
	解決策	電圧・電気抵抗が2倍になったら電流の大きさがどうなるか、説明してみましょう						□
	チェック2	電熱線（豆電球）の直列、並列と電気抵抗の大きさについて言葉で説明できますか？						チェック
	解決策	「直列＝電熱線が長い＝電気抵抗が大きい・並列＝電熱線が太い＝電気抵抗が小さい」イメージです						□
	チェック3	導線付近に置いた方位磁針の振れを正しく判別できますか？						チェック
	解決策	必ず右手を使って確認するようにしましょう						□
	チェック4	電磁石にできる極を正しく答えられますか？						チェック
	解決策	やはりこちらも右手ですね。親指以外の4本の指を、流れる電流の向きに合わせましょう						□
	チェック5	過去の学習内容を、少しずつでも家庭学習にとり入れていますか？						チェック
	解決策	組分けテストで結果を出すために、少しずつ取り組みたいですね						□
早稲田アカデミー	5年							
	社会							
学習内容	13回 江戸時代（4） 14回 明治時代（1） 15回 総合（予習シリーズ5年㊦ 第11回～第14回） 16回 明治時代（2）							
家庭学習ポイント	江戸時代が終わり、第14回「明治時代（1）」で日本の近代化を学習することから始まります。第11回～第14回までの復習となる総合回を経て、第16回「明治時代（2）」を学習します。明治時代の日清戦争と日露戦争、そして冬期講習をはさんで大正時代の第一次世界大戦という3つの戦争についての学習がメインです。これらの戦争に日本がどのように関わったかを自分で説明できるようにすることが大切です。明治時代は立て続けに重要な出来事が起こるため、問題を解く前に年表をノートに整理し直した方が、全体としての学習効率は上がります。冬期講習はありますが、冬休みということで実は復習を進める大チャンスです。もう一度、旧石器時代から予習シリーズを読み直し、市販の「サピックス年表トレーニング」などを利用して知識を整理し直せると良いかもしれません。文化史や社会産業史、外交史といった、テーマごとの歴史の学習を先取りする、あるいは地理の苦手分野の復習をするのも有効です。冬期講習では今まで学習した歴史の総復習が行なわれます。							
課題の把握と解決策	チェック1	江戸幕府末期からの「流れ」をしっかりと理解して学習していますか？						チェック
	解決策	尊王攘夷運動～明治維新～富国強兵・文明開化といったKWに起こったことを結びつけましょう						□
	チェック2	自分で年表にまとめて学習が進められていますか？						チェック
	解決策	江戸末期～明治時代にかけては、日本史上もっとも激動の時期です。年表で流れを理解しましょう						□
	チェック3	1867年、1869年、1871年といった超重要年号は押さえていますか？						チェック
	解決策	1867年＝大政奉還、1869年＝版籍奉還、1871年＝廃藩置県ですね						□
	チェック4	ルーティンの学習に地理を組み込んでいますか？						チェック
	解決策	特に地理が苦手だったお子さんは、長期間放置すると大変です						□
	チェック5	歴史学習の「スタイル」を確立できていますか？						チェック
	解決策	明治時代以降こそ「因果関係で流れを掴む」学習法が効果を生み出します						□